

アンケート調査等で明らかとなった課題および当金庫の今後の対応

	判明したこと	課題と対応の方向	当金庫の具体的施策	
			これまで取り組んできたこと	これから取り組んでいくこと
リニア 開 通 効 果	<p>リニア開通により、品川から45分、名古屋から20分、が実現される</p> <p>長野県駅(飯伊地域)が最も時間短縮効果が高い</p> <p>上伊那地域、三遠南信地域(自動車道)との連携がカギ</p> <p>リニア新幹線完成までには、家屋・事業所の移転対応等多くの困難がある</p> <p>(I章、III章)</p>	<p>都会と直結することによる機会と脅威の可能性</p> <p>機会を捉えた働きかけ [ビジネスマッチング・事業提携への取り組み 都会の人に飯伊の魅力を伝える 地元企業、産業・経済のパワーアップ]</p> <p>脅威の低減を図る</p> <p>交流人口増 定住人口増 を図る</p> <p>開通前からの連携・提携への取り組み 上伊那、三遠南信、リニア沿線地域等 地域間交流の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 三遠南信等で各地信用金庫・信用金庫協会主催による商談会を実施</li> <li>● 下伊那地方事務所、飯田商工会議所・各商工会との連携による首都圏・中京圏を対象とする商談会の実施</li> <li>● 地域の観光地や昼神温泉等を全国信用金庫にPR</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ リニア新幹線沿線信金との連携による経済交流・信金中央金庫を核として関係金庫との連携を開始</li> <li>■ 東京品川地区との交流事業の実施 ・地元特産品活用のイベント開催(松茸など)</li> <li>■ 全国信用金庫との連携による観光地・温泉旅館等地域資源の紹介活動を推進</li> <li>■ 工業系ビジネスマッチングの開催</li> <li>■ リニアについての定点観測、三遠南信自動車道に関するアンケート調査の実施</li> <li>■ リニア建設により家屋・事業所が移転となる個人・企業への支援</li> </ul>
人 口 問 題	<p>人口減少の進行</p> <p>リニア開通時に飯伊人口は約14万人 (しんきん南信州地域研究所推計 平成27年10月国勢調査速報値16万2千人)</p> <p>18歳でこの地を離れていく 学卒者が戻ってこない</p>	<p>若い人を地域に呼び込む [学卒者のUターン促進 Iターン促進]</p> <p>地域内に学生が活動する機会をつくる 知の拠点づくり</p> <p>人口を増やすための総合的な取り組みとして地方創生の取り組みに与</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学輪IIIDAを通じたアカデミー機能の創出</li> <li>● 大学のフィールドスタディへの協力・支援</li> <li>● まち・ひと・しごと総合戦略策定に関係自治体の要請に基づき戦略策定に参画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Uターンを促進するための奨学金制度創設の研究・検討</li> <li>■ 地方自治体との協働によるRESASの地方版総合戦略への活用の取り組み</li> </ul>
産 業 振 興	<p>人口問題の基礎条件は産業振興</p> <p>雇用の場の確保 「働く場所」「若い人が勤められるところ」が切望されている</p> <p>「経済自立度」は回復傾向にあるが伸びは鈍化</p> <p>(I章、II章)</p>	<p>「外貨」を稼ぐ産業の振興 新産業支援・創業支援</p> <p>「外貨」を地域に還流させる産業の支援</p> <p>若い人に地元企業を認知</p> <p>企業・研究施設等の誘致</p> <p>リニア開通を見据えた産業・経営基盤強化 経営支援、事業承継支援</p> <p>地元企業の付加価値を高めるための支援 デザイン力など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」特区支援利子補給金対象金融機関として航空宇宙産業に関する融資を実行</li> <li>● 日本政策金融公庫、飯田商工会議所との連携による創業者向け商品の取扱いを開始</li> <li>● 長野県事業引継ぎセンターとの連携による事業承継対応を実施</li> <li>● 長野県信用保証協会、税理士等との提携による取引先の経営改善支援</li> <li>● 専門アドバイザー制度による相談・支援</li> <li>● 中小企業基盤整備機構、中小企業団体中央会、飯田商工会議所・各商工会等との連携による補助金申請手続支援</li> <li>● デザイン系大学院大学プロジェクトに参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「航空宇宙産業クラスター」「飯田メディカルバイオクラスター」へ参画する企業に対する情報提供等の支援</li> <li>■ 地域の地場産業を支援するため業界団体と連携した研究事業を開始</li> <li>■ クラウドファンディング導入の準備</li> <li>■ 地域の企業内教育への支援</li> <li>■ 信金中央金庫・信金ネットワークを通じた企業、研究施設等の誘致の検討</li> <li>■ 当金庫の職員採用方式の検討</li> </ul>
暮 ら し	<p>合計特殊出生率が高いなど、当地は子育てしやすい環境</p> <p>児童施設・子育て支援については要望が多い</p> <p>高齢者対応の施設・サービス拡充が求められている</p> <p>高等教育施設の設置要望が強い</p> <p>(I章、II章)</p>	<p>青少年育成の支援</p> <p>学校教育・勉学への支援</p> <p>高齢者施設への資金・マンパワー面の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 当金庫周年記念事業として飯伊地域の小中学校に図書券を贈呈</li> <li>● 小学生向け金融教育、中・高・大学生向けインターンシップの実施</li> <li>● スポーツ・文化振興への取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 青少年健全育成、自然保護・伝統芸能保存等に取り組む個人・団体に対する助成制度の創設</li> <li>■ 太陽光、小水力、バイオマスなどの普及への取り組み</li> </ul>
地 域 資 源	<p>自然が豊か</p> <p>歴史と伝統 特徴ある祭り</p> <p>生活のゆとり</p> <p>当地域の環境への先進的な取り組みへの評価が地元で低い</p> <p>自然災害の少なさ</p> <p>(II章)</p>	<p>自然の保護 自然保護関係団体への支援</p> <p>自然エネルギーを活かす取り組み、自然エネルギー普及のための支援</p> <p>「安全」をキーワードとした地域づくり 官庁の防災業務への支援</p> <p>伝統文化・芸能を守る個人・団体の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ISO14001認証を取得し環境問題に平成12年から先進的に取り組む</li> <li>● エコファイナンス支援による「おひさま0円システム」等再生エネルギー普及支援</li> <li>● 当金庫周年記念事業で南信州広域連合へ消防車・救急車を寄贈 累計で10台</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 信州大学の航空機システム研究講座設置に対する支援</li> <li>■ 地方公共団体および信金中央金庫と連携し、自然災害等へのバックアップ機能の適地として、当地へ都市圏企業・行政機関の誘致の取り組み</li> <li>■ 可処分時間が豊かなことを都市圏へ発信</li> </ul>
ま ち づ く り	<p>リニア長野県駅に関連した街づくりに様々な意見がある</p> <p>リニアで多くの人が訪れる街づくりを志向する意見</p> <p>(II章)</p>	<p>地域の街づくりに参加、取り組みの支援</p> <p>「リニアの街」にシンボルとなる施設の創設</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本町市街地再開発事業に参画、本町再開発ビルを建設</li> <li>● リニアに関するアンケート調査実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ リニア長野県駅周辺整備区域への支店出店を視野に入れた街づくりへの参画</li> <li>■ 「大型複合スポーツ施設」の設置に向けた関係機関等との研究 行政機関との対話や民間活力・民間ネットワークの活用</li> </ul>

## IV. 飯田信用金庫の決意

### ～しんきんからの地域への提言～

I～III章の各調査からリニア中央新幹線時代を迎える飯伊地域にとって明らかとなった課題を、前頁の一覧表にまとめる。

#### 1. 調査から見えてきた課題

##### ～地域への提言についての前提～

##### (1) リニア開通の当地域への影響

リニア開通により、品川駅から約45分、名古屋駅から約20分と圧倒的な時間距離の圧倒的短縮が実現される。特にリニア長野県駅は、東京（品川駅）からがこれまでの4時間半から5時間が45分程度と劇的に変わる地域であり、最も時間短縮効果を享受できる地域となる。

大都市がすぐ隣りにくることには、よい影響、悪い影響が生ずることが考えられる。アンケート結果では、地域の中で今のところそれらの影響をイメージしきれておらず、具体的な取り組みに思い至っていないことが窺われた。よい影響がより多く及ぶように、悪い影響は予防もしくは低減させることが必要であろう。

新幹線開通効果を最大化するためには、リニア長野県駅を通じての交流人口増を図るために上伊那地域、三遠南信地域、中央新幹線沿線地域との連携によりお互いが行き来する機会が増えるよう取り組む。

なお、リニアおよび関連工事に関連して開通までには多くの方々や事業所が移転等に対応しなくなければならない現状もある。それに対しどう寄り添っていくか考えたい。

##### (2) 人口減少に直面する当地域

本調査の人口分析によると、地域人口は今後徐々に減少し、リニア中央新幹線開通の頃の人口は14万人前後になると推計される。また、当地域の特性として、高校を卒業する年代になるとこの地域から出てゆくが、大学卒業後の20代中頃から30代中頃にかけての年齢の人が当地域へ戻ってこない傾向がみられる。これについてアンケートの意見では、当地域に四年制大学等高等教育機関の設置を要望する意見が多いことや「働く場所」「若い人が勤められるところ」など、特に大学を卒業した人達が就業するに相応しい職場に乏しいということになる。若い人がこの地域へ戻ってくるような魅力ある職場づくり、当地域企業の魅力を伝えていくことも必要と考える。また、子供たちが地域を離れる前の小・中・高生に当地の魅力を伝えること、地域で働くようにするための職業教育を適切に行うことなど、若い人に戻ってもらう働きかけのが重要との意見もあった。

当地域に四年制大学はないが、学輪 I I D A など大学生にこの地域で活動する機会を提供するという取り組みがこの間進められている。今後も引き続き強化するとともに学生と地域の人や事業所との結び付けを強めていくべきとの意見を聞くことができた。

##### (3) 産業振興の重要性

人口の問題の分析により、人口問題のカギは産業振興、働く場所の確保が重要な要因となっていることを明らかにした。他方で、外から企業を誘致しても経営環境の変化等により地域を出て行ってしまうことも指摘されるところである。産業振興には一発逆転の秘策はなく、当地域の既存の事業所のパワーアップ・経営基盤強化に加え、新しい産業の創造、創業に取り組むことも求められている。その中で「地域課題解決型の産業振興」

を掲げさせていただく。

#### (4) 地域の暮らし

当地域は、合計特殊出生率が全国平均を上回り、県下でも高い地位にあり、子育てしやすい環境にあると分析された。その一因として3世代以上が暮らす世帯で子供を見守るといふ子育てが行われているとの分析がある。公共サービスとしての子育て施設やサービスの要望は、アンケート調査によると医療・高齢者対策ほどではないものの上位にあり、要望内容も多様である。

「将来この地域に住み続けるのに必要な設備・施設」としてトップは「教育・研究機関等」であることも、地域としてどう捉えて取り組んでいくか議論が必要といえる。

高齢者のための設備・サービスへの要望も高いものとなっている。

#### (5) 当地域の資源

当地域の多くの方が、豊かな自然や、祭りや歴史資産、観光スポットの豊富さなどを挙げている。他方で「当地域にはこれといった場所がない」といった意見や、地域内ではいろいろなお勧めの場所やイベントが挙げられているものの「当地域のものは力不足」という意見もある。また、折角の資源を活かしきれていないとして、リニア時代を見据えた魅力アップのための提案が数多く寄せられている。

自然を守り、活かして多くの方に訪れて楽しんでもらうための取り組みと当地域で進められている自然エネルギー利用の普及を進めることについては、アンケートでは、当地域の環境への取り組みが先進的であることの評価は高くなく、十分に浸透しているとはいえない状況が窺われた。地域外からの当地域の取り組みには評価が高いという結果が表れている。

当地域の自然災害の少なさを挙げた回答も多かった、リニア時代に向け安全・安心の面で当地の売りにしていくことも可能との意見も聞かれた。

#### (6) これからも住み続けるのに魅力的な地域

リニア長野県駅の整備に関連した街づくりには、多くの意見が寄せられており、関心の高さが窺われた。意見には内容の相反するものがあり、全部を実現することは不可能と思われるが、駅周辺整備に関連しては地域からの意見が十分取り上げきれていない状況を窺うことができる。

地域の方が駅周辺に何を求め、リニア中央新幹線で訪れた人が楽しんでもらうために何をすべきか、地域の意見を集約することでは、先頃の飯田市「リニア駅周辺整備検討会議」において駅周辺整備や街づくりのアイデアを募集していくことが報告され、時宜を得たものとする。また、行政のみでなく民間としても、リニア駅周辺のみならず飯伊地域全体について、いろいろな形で知恵を出していくべきことが必要と考える。

## 2. 当金庫のこれまでの意見表明

長野県が平成26年2月に行った「長野県リニア活用基本構想」へのパブリックコメントの要請に応え、当金庫は平成26年3月7日付で所見を提出した。(図表IV-2-1)

今回、本報告において提言を試みる上でも、この所見の内容は依然として妥当性を失っていない、ということができる。

図表IV-2-1

長野県リニア活用基本構想（案）（平成26年2月6日）に対する所見

飯田信用金庫

1. 当構想に盛り込まれた内容として、課題がもれなく網羅されている。  
今後、実効性を高めるために、
  - ①「選択と集中」などメリハリのある取組が必要
  - ②優先順位のつけ方が重要と考えます。
2. リニア活用による地域経済の活性化については、地域外からの乗客が長野県駅に降り立つ必然性をどれだけ創り出せるかにかかっており、その視点を基本として維持していくことが大切と考えます。
3. 最優先事項として、リニア駅におけるトランジットハブ機能の拡充を最重点にお願いしたい。
  - ①リニア駅完結型ではなく、活用効果を地域の隅々に行き渡らせる。
  - ②延長上に、JR飯田線の活性化・道路交通網・交通体系再構築があることを認識しておく必要がある。
4. ストロー効果への対応
  - ・地域資源を活かすことができる産業の仕組み作りを考える。
  - ・新たな産業分野づくり（航空宇宙産業、健康長寿食品産業）は極めて重要だが、その他、地域課題解決型（地域創発型）のビジネス創出のための支援も重要と考える。
5. 地域資源の強みを生かした上で、地域的・一体的な開発という面からMICE機能（施設）は大きなインパクトを持つものとする。
  - ・当基本構想に盛り込まれている「飯田版（長野県版）MICE」への積極的な取り組みに飯田市が進めている「学輪IIDA（大学連携）」との協調、協働を併せて期待する。
6. リニアを地域経済活性化に生かすという観点では、地域金融機関が果たすべき役割は大きいと考えている。
  - ・地域金融機関として、金融面だけではなく、これから進められていく具体的取組について、地域マネジメントの面から積極的に参画させていただきたい。
7. 3駅の広域連携については、まず民間ベースで、人的な交流の促進による自発的、自立的展開を模索すべきと考えます。

以上

### 3. 今後取り組むべきこと

#### 地域への提言

##### (1) 提言にあたって

本調査は平成27年4月に始動した。その頃地域を回っていると皆さまから様々な意見を聞くことができた。「JR東海や行政は地元の思いに寄り添っていない」、「行政の取り組みが見えてこない」、「長野県の関わり方が、他の県と比べ力が入っていない」、「産業界の意見が十分に出ていない」等々である。

当金庫が本調査に取り組む動機の一つとして、これらの声をまとめ広く発信していく必要があると考えた、ということもあった。

しかし、この10カ月余の間、特に平成27年から28年へ年が替わる頃を挟んで状況は大きく進展してきた。

##### ① 関連事業の進捗が目に見える形で進む

I章で述べたとおり、駅周辺整備など関連事業の取り組みは他の中間駅地域に比べて遅れてスタートしたが、平成27年12月10日には国道153号北改良、座光寺上郷道路、スマートインターおよび取り付け道路のルート発表が行われた。また、同じ12月22日には駅周辺整備区域の確定と周辺整備イメージの公表があり、他中間駅地域と遜色のない程度もしくは一歩進んだ進展との印象も伝わっている。飯伊地域では、検討経過の開示等が他地域より適切に行われていることも一因と考える。

これによって新たに対象地権者が確定し、対応を迫られるという事態が発生したことになるが、いずれにしろそれぞれの中味がはっきりと見えてきことは良いことであろう。

##### ② 地域に寄り添う態勢づくり

平成28年2月12日飯田市第4回リニア駅周辺整備検討会議において「駅周辺の住みやすさを考える会（仮称）」の設置が提案された。リニア駅周辺整備基本構想にもとづく整備事業について地元代表と行政機関により構成される会議体においてよりきめ細かい検討が進められる態勢がとられることとなった。

##### ③ 長野県の動きが見えてきた

平成28年2月には長野県職員の飯田市派遣が伝えられた（南信州報道）。北陸新幹線飯山駅の整備には県職員が飯山市に派遣された事例があったと聞いており、リニア新幹線および関連事業についてもいよいよ長野県が本腰を入れてきたとの感触を得ることとなった。

また、2月9日伊那谷自治体会議において、長野県知事が座長に就任するとの発表があり（南信州報道）、長野県と飯伊地域、上伊那地域が一体となって進めていく感じが見えてきた。

##### ④ 各界・各層でのビジョンづくり、個別対応の取り組みが続く

飯伊地域自治体の総合戦略が相次いで公表され、リニアと絡めた取り組みが明らかになった。これまで、どちらかという行政主導による取り組みが先行していた感があるが、地域レベルの取り組みも明らかになっている。

- ・平成28年2月9日 飯田市「飯田5地区まちづくり協議会」でリニアを見据えた地域課題の共有・協議（2月12日付南信州）

- ・平成28年2月9日 ゆめみらい南信州（飯伊市町村議会議員有志の団体）  
（2月12日付南信州） など

**(a) 南信州シルバー人材活用バイオビレッジ構想**

産業界の分野では、飯田市がバイオテクノロジーや生命科学関連の研究者、開発企業などを誘致して研究者らの定住型組織を構築しようとする「南信州シルバー人材活用バイオビレッジ構想」を計画。27年10月には(株)バイオビレッジが設立され、団塊世代の研究者や大学教員などがこれまでの経験を生かしながら定年後の生活と合わせ研究開発を進める拠点の整備が本格化している。（新建新聞社）

**(b) 「輝く伊那谷のリニア飯田駅」構想**

一つひとつの個性ある町村や人々が輝いてこそ、地域の魅力が見えてくるという考え方、飯田下伊那のマスの観光地ではなく「大都市圏の近くの田舎」としての魅力伝える場が必要との考えから『輝く伊那谷のリニア飯田駅』構想が、南信州アルプスフォーラムにおいて提案されている。

**(c) 「商業もサービス業も元気で、歴史と文化のあふれる田舎の豊かさが存在するまち」**

「特定非営利活動法人いいだ応援ネットイデア」では、リニア時代を見据え、中心市街地において現状の事業継続と新たなビジョンの策定により「田舎の豊かさ」が存在するまち実現に向け、他地域の視察等の活動を行い例会、事例研究会にて検討を重ねている。

**(d) 「食」と「農」への視点**

食の分野では、シニア野菜ソムリエ久保田淳子氏が、リニア将来構想の一つである「食」と「農」について、南信州地域における伝統野菜の産地や地域の現場に出ている経験、女性の観点からとしての野菜について講演活動、執筆活動中心に理解と活用を深める活動に尽力されている。

**⑤ 三遠南信自動車道の進展が見えてきた**

三遠南信自動車道は、天竜川大橋は左岸の下部工工事が進み、上部工の工事も近く開始の予定となっている。天竜峡から飯田市上久堅の飯田東IC（仮称）までの飯喬道路2工区は、龍江地区から上久堅地区にかけて各所で道路が姿を現してきた。その先の3工区にも工事が始まっている箇所が見られる。青崩峠道路の青崩トンネルの工事も順調に進捗している。

三遠南信との結節がみえてきた中で、今回の調査では三遠南信自動車道はひとまず横に置いて、リニア中央新幹線を軸とした調査に取り組んできたが、今後はいよいよ三遠南信との連携も視野に入れリニア新幹線と絡めた諸課題の検討を進めていく必要がある。

以上のとおり、本調査において当地域へ提言しようとするものが既に実施に移されつつある状況ではあるが、以下については申し述べる必要があるのではと考える。

**(2) リニア時代を迎えるために ～「One for All , All for One」**

ラグビーのチームプレイ精神を表すといわれる、「One for All , All for One」。

「一人はみんなのために、みんなは一人のために」と訳されるが、二つ目の「ONE」は「一人」という意味ではなく、「全員に共有化された目標（＝勝利）」をとらえるべきだろう。みんなは、「一人のために」ではなく、「一つの明確な目標のために」、ということなのである。

ただし、そこには前提条件がある。「一人ひとりが『自立』した存在でなければならない」こと。当地域において進められている経済自立化においてもしかり。「自立」のためには、一人ひとりが「明確な目標」に向かって自らの足で立ち、それぞれの役割を果たすことができる集団になることが求められる。「自立」し自ら「稼ぐ」人々が「集まった」ときに、その目標は現実のものとなる。

当地域は、リニアにより極めて大きな環境変化を迎えることになるが、地域が「勝利」を勝ち取るためには、これからの開業までの残された期間、「明確な目標」のもと、それぞれがどれだけ自立しどれだけ連携し相乗効果を発揮し、環境の変化にどれだけ備えることができるかにかかっているだろう。

#### ① 地域一丸となって

「…おんみさかしくみめよくそだちたれど いま新しき時代に生きんとす…」。岸田國士「飯田の町に寄す」の一節である。地域にとってリニアは諸刃の剣、これまでの当地域の生活環境、経済環境に新たな風穴をあけるもの、いわば黒船の襲来ともなる新しき時代の幕開けである。大きなチャンスと同時に、これまで培われてきた良い面をスポイルする要因にもなりうる。岸田國士は「飯田の町に寄す」を、こう結んでいる。

「…おんみの心をこそ新しくよそほひたまへ」。不作為（何もなさないこと）は決して好結果をもたらさない。来るべきリニア時代に向け、地域一丸となって、改めて「心をよそほう」ことが求められている。

#### ② 固有の地域資源を再定義(再発見)しフルに生かす

当調査のアンケート結果にもみられる通り、自然環境、観光資源、人的資源、地域特性などの面において、当地域の特長の一つは、その「多様性」にあるといえる。

文化、歴史、生活習慣や地域ぐるみのおもてなしの心（ホスピタリティ）などにおいても、こうした「多様性」を地域に共通のものとして今一度見直し再発見することにより、地域ブランドと地域アイデンティティを再構築していくことが重要だろう。

#### ③ 地域創発型の産業振興を

リニア開業により、当地域においてもグローバル化がますます進展することが予想される。ビジネスチャンスが広がる中で、地域経済活性化のためには、まず第一に、地域の地場の産業の活性化と、地域住民が抱える様々な課題を解決、解消していけるような地域課題解決型のビジネスなどの新たな産業を育み、育てることが必要であり、そのためには、地域全体としてのマーケティング思考がより重要となる。

#### ④ 地域、機関ごとの機能・役割分担の明確化、一体的推進

リニア中央新幹線だけでなく、三遠南信自動車道の開通等を見据えたとき、残された期間と資金は限られている。その効果を最大限に上げていくためには、地域全体をマネジメントする機能が重要であり、長期的（将来的・戦略的）な目線、未来に対する目標を共有化しそれぞれの機能や役割を明確にするという全「南信州」の視点が必要不可欠であるとともに、地域として取り組むべき事項については、優先順位と役割分担の明確化が求められる。

⑤ 隣接地域、中間駅地域間や産業分野間、産学官金の「連携」の強化・活用

地域間や産学官金における「つながる力」・「つなぐ力」を高めること。各の単独の力だけではなく、様々な局面での連携力、ネットワークにより地域全体の力を高めていくことが、サステナビリティ（持続可能性）を維持していく大きな原動力となるものと考えられる。

⑥ 交流人口の増加から、定住人口増へ

長期的には、リニア開業によって期待される交流人口の増加を、定住人口の増加につなげていくという発想が必要。地域の良さを突き詰めて考えていくことで、観光客やビジネス客だけでなく、地元の住民にとっても、かけがえのない「ふるさと」であり続けることが大切。また、地域内企業においても、誇りの持てる雇用の場を創造していく努力が期待される。

## 4. 飯田信用金庫の具体的施策

### ～これまで取り組んできたこと～

本来業務である金融業務に加えて、産業振興・地域づくり支援やリニア・三遠南信時代を見据えた取り組みを行ってきました。

#### (1) マーケティング支援、ビジネスマッチング

##### ①各信用金庫との連携による商談会の主催・共催

各地信用金庫、信用金庫協会主催各種商談会のご案内を行い、参加事業者に対し当庫職員によるアテンド支援を行っています。

・城南信金の食品ビジネス商談会、県協会特別商談会

##### ②外部機関との連携による商談会

下伊那地方事務所、飯田商工会議所、各商工会との連携により、信金中央金庫のサポートを受け、首都圏、中京圏を対象とした取引先販路拡大に繋がる商談会を開催しています。

・平成26年度南信州うまいもの商談会10パイヤー  
23サプライヤー出展、個別商談95件実施

##### ③当地域の観光地や温泉の全国信用金庫への紹介

全国信用金庫と各信用金庫協会のネットワークでの「旅行情報」により、当地域の温泉旅館等の情報を提供し、当地域へ数百人規模の団体旅行を送り込んでもらうという実績が上がっています。



ビジネスマッチングフェア in 浜松  
(経営相談所撮影)

#### (2) 「知の拠点」づくり、地方創生への支援

##### ①「学輪 I I D A」の取り組み

飯田市等とともに、21世紀型の新しいアカデミー機能や場をつくる「学輪 I I D A」に参画、「しんきん南信州地域研究所」を中心にして当地域の執るべき手段や飯田の可能性について研究・討議を行っています。

・平成28年1月23日「学輪 I I D A」全体会開催  
現在は35大学87名の研究者が参画しています



「学輪 I I D A」公開セッション  
(経営相談所撮影)

##### ②大学のフィールドスタディへの協力・支援

全国大学のフィールドスタディに協力、地方公共団体やしんきん南信州地域研究所と連携して当地域の情報発信機会を創出しています。

##### ③当金庫職員による人的支援

###### (7) 「まち・ひと・しごと創性総合戦略」策定に関する支援

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の地方版総合戦略策定にあたり、市町村からの要請を受けて担当支店長はじめ職員を派遣しました。

#### (イ) 各種地域プロジェクト等への職員派遣を通じ地域へ貢献できる人材の育成

平成27年度 飯田市未来デザイン会議  
南信州次世代会議  
飯田市プロジェクト研究  
飯田応援ネットイデア  
Wakamono Biz プロジェクト  
昼神温泉将来構想検討委員会  
他

#### (3) 創業支援、経営強化、産業基盤強化のための支援

##### ① 航空宇宙産業への取り組み支援

「アジア No. 1 航空宇宙産業クラスター形成特区」の当地域指定をうけて、平成27年1月特区支援利子補給金対象金融機関として当金庫が国から認定され、航空宇宙産業に関する融資実績を上げています。

##### ② 創業支援

日本政策金融公庫、飯田商工会議所と連携し、当金庫アドバイザーがバックアップ態勢をとる創業者向け金利優遇融資商品の取扱いを始めました。

- ・平成27年9月株式会社日本政策金融公庫と「業務連携・協力に関する覚書」締結  
飯田商工会議所「経営発達支援事業」をプラットフォームとして伴走型支援体制を構築



日本政策金融公庫、飯田商工会議所提携調印式  
(法人営業課撮影)

##### ③ 事業承継支援

長野県事業引継ぎ支援センターとの連携、当金庫アドバイザーの活用により、取引先の事業承継問題に対応しています。

##### ④ 経営改善支援

長野県信用保証協会、税理士等関係機関との連携により、取引先企業の経営改善計画策定に取り組んでいます。

##### ⑤ 専門アドバイザーによる経営支援

当金庫専門アドバイザーを設置し、長野県よろず支援拠点、弁護士等専門機関と連携して相談支援メニューの充実を図っています。

専門アドバイザー2名

- ・長野県よろず支援拠点当金庫相談件数  
26年度 5件、27年度 18件(4～11月)



長野県よろず支援拠点連携「マイナンバーセミナー」  
(経営相談所撮影)

## ⑥外部機関との連携による支援

中小企業基盤整備機構、中小企業団体中央会、飯田商工会議所、各商工会等関係機関との連携及び当金庫アドバイザーとの協働により各種補助金申請支援を行っています。

- ・平成26年度補正予算ものづくり補助金について、個別相談会2回開催。申請22件中11件採択（27年度実績）

## ⑦デザイン系大学院大学プロジェクトへの参加

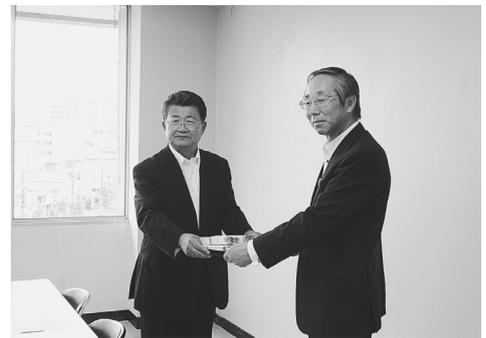
飯田市の主催する研究会に参加して実現に向けた研究を行ってまいりました。

## (4) 教育・スポーツ文化振興のための取り組み

### ①当金庫周年事業として飯伊地域の小中学校に図書券を贈呈

当金庫周年事業として、地域の小中学校に図書券を寄贈し、子供たちの教育環境整備・充実に役立てていただきました。

- ・66校に対し各10万円



創立90周年に図書券を贈呈（総合企画部撮影）

### ②小学生向け金融教育、中・高・大学生向けインターンシップの開催

地域の子どもたちを対象にした金融教育を開催し、学生対象のインターンシップ教育にも積極的に関わっています

- ・平成27年8月8日「小学生を対象とした金融教育」を本店営業部にて開催。  
「お金の重さ体験コーナー」「お金の偽造防止技術コーナー」等200名を超える来場



金融教育 お札の偽造防止技術体験コーナー（人事課撮影）

### ③スポーツ・文化振興への取り組み

地域のスポーツ・文化に関する取り組みに支援を行いました。

- ・人形劇フェスタ
  - ・ホームタウンコンサート、オーケストラと友に音楽祭
  - ・やまびこマーチ
  - ・ツアーオブジャパン
  - ・長野グランセローズ
  - ・信州ブレイブウォリアーズ
  - ・VC長野トライデンツ
- 等のスポンサーを務めさせていただきました。



オーケストラと友に音楽祭「音楽クリニック」  
(飯田文化会館撮影)

## (5) 地域資源、環境保全再生への取り組み

### ① ISO14001認証取得による環境問題への取り組み

平成12年ISO14001の認証を受け、理事長名で制定した環境方針に従い関連会社を含めて環境改善に取り組んでいます。

### ② エコファイナンス支援

平成21年に飯田市との地域活性化パートナーシップ協定に基づき、おひさまグリッド(株)に対するエコファイナンス支援を通じた「おひさま0円システム」を立ち上げました。

環境への様々な取り組みを通じて平成25年3月末時点で飯田市においては、太陽光の世帯普及率が5%を超え、全国でも先駆的な都市となっています。

### ③ 防災行政に対する支援

飯伊地域の公益に資するための支援として、当金庫創立周年事業の機会を捉えて、南信州広域連合に消防車、救急車を寄贈してきました。

・累計で10台



創立80周年にはしご車を寄贈（リニア対策室撮影）



創立90周年に化学消防車を寄贈（総合企画部撮影）

## (6) まちづくりに対する支援・参画

### ① 市街地再開発への参画

中心市街地の活性化のための再開発事業に参画し、本町再開発ビルの建設に取り組みました。



（リニア対策室撮影）

## 5. 飯田信用金庫の具体的施策

### ～これから取り組んでいくこと～

前項に加え、当金庫として今後の地域発展のため、以下の取り組みを行っていきます。

#### (1) リニア中央新幹線、三遠南信自動車道開通後の社会を見据えた連携

##### ①信金中央金庫を核として、リニア中央新幹線沿線金庫との連携づくりに向けた取り組みを開始します

信金中央金庫を中心に、東京都の品川地域の信用金庫、神奈川県相模原市を含む地域の信用金庫、山梨県、岐阜県、愛知県の信用金庫との交流・意見交換の場を設けることとし、その中でテーマを定めての研究や交流事業へと発展させます。

この中から、今後のビジネスマッチングに結びつく種を育てていきます。

調査で明らかになったとおり、リニア長野県駅設置によるリニア効果を最大化するためには、当駅の駅勢圏に厚みを増していく必要があります。飯伊の人口や産業・経済の規模だけでは十分ではありません。上伊那地区との経済的な一体化を図るとともに、三遠南信自動車道開通により期待される三遠南信地域との連携が必要となります。

長野県経営者協会を通じた上伊那地域との交流や、三遠南信地域信用金庫との交流などをもとに一層の広域経済連携に取り組めます。

##### ②リニア中央新幹線の始発となる東京品川地域との交流・連携事業検討に着手します

品川地域とは、同方面の信用金庫との意見交換を通じ交流事業の可能性を探ってきました。リニア開通を見据え品川地域の行政、経済界・経済団体、住民との交流を進めていくことは有益なことといえます。当地域の特産物、例えば品川地域で松茸などの特産品を活用したイベントを開催し、飯伊地域を広く認知してもらう場を設けます。

このイベントをきっかけにして両地域の住民同士、産業経済界の交流を図ります。

##### ③全国信用金庫との連携により、飯伊地域の観光地・温泉旅館紹介を推進します

当金庫は、これまでも当地域の温泉・観光地を他の信用金庫に紹介して実績を上げてきました。温泉、果樹、アルプス、天竜川などの資源に恵まれています。当地域の更なるブランド力アップのため、今後はこれを更にシステム化し、当金庫内で各支店から温泉や観光スポットの情報を吸い上げて貯め、全国の信用金庫に紹介することに取り組めます。

また、アンケート調査等地域外の意見も取り入れて地域資源の魅力をブラッシュアップし、観光関係諸団体とともに観光産業振興のための情報発信に努めます。

##### ④工業系ビジネスマッチングの開催に取り組めます

現在、様々な展示会、商談会が開催されていますが、①具体的な商談に結びつく機会が少ない、②行われているものが「食」が中心になっている、との指摘があります。

リニア開通により関東圏との交流機会が増すと思われられますが、当地域および上伊那地域の強みとして工業集積が厚いことが挙げられます。このことが将来の経済交流で力を発揮していくことになると思われます。

上伊那地域と連携し、工業系の企業を中心とした商談を重ねていくタイプのマッチングに取り組んでいきます。

### ⑤リニアに関する継続調査、三遠南信自動車に関するアンケート調査の実施に取り組みます

本調査を発端とし、これからのリニアに関する調査を引き続き定期的の実施して当地域のリニア開通に向けての変化を追っていきます。

リニアについて、他の中間駅地域や東京・名古屋の地域とで、関連の各信用金庫と連携して同一の調査票でアンケートをとることや、大学との連携により、学生による都会地の意識の調査などを検討し取り組んでいくこととします。

三遠南信自動車道に関するアンケート調査等を、三遠南信地域の信用金庫と連携して実施します。

### ⑥リニア工事により移転となる個人・事業所への支援に取り組みます

家屋・事業所の移転を余儀なくされる個人・事業主の皆さまに対し、今後の移転に伴う生活の設計や事業の継続などについて、当金庫本業の金融業務のほか経営・税務相談、専門アドバイザーなどの機能をフルに働かせて、皆さまのお手伝いをして参ります。

## (2) 人口減少社会を見据えた産業振興、暮らし、子育て支援

【当地域は合計特殊出生率が高く、長寿で高齢者も多いが、一旦地域を離れた若者の多くが地域外に留まっていることが人口構成上の大きな特徴となっています】

### ①学生が学業に専念でき当地域へ就職のため戻って来られるよう、Uターンを促進する奨学金制度の創設等の支援策の研究・検討を行います

親元を離れて暮らす学生の生活を援助し、なおかつ卒業後当地域に戻ってくるきっかけとして、Uターンにより返済免除する奨学金制度の創設について研究を行うとともに、実現に向け行政等と検討していきます。

### ②地方創生に対する取り組みへの協力

地域経済分析システム（RESAS）の活用等により、地方自治体が立案した地方版総合戦略への協力・支援に取り組みます。

## (3) 産業振興

【人口問題の基礎条件となる産業振興に向けて】

### ①「航空宇宙産業クラスター」「飯田メディカルバイオクラスター」「デザイン系大学院大学」などへの支援

「航空宇宙産業クラスター」「飯田メディカルバイオクラスター」「デザイン系大学院大学」など当地域の将来を担う新しい芽が育ちつつあります。工業、生命科学関連事業、将来的高等教育機関が今後も順調に成長するために関係機関と連携して支援体制を整えます。

### ②当地域の地場産業振興に取り組みます

長い歴史・伝統を有し当地域の現在を築いた地場産業支援も地域金融機関には欠かすことができない役割です。業界団体や行政機関と連携して地場産業振興に向けた研究事業を開始します。

- ・長い歴史・伝統を有し、当地域の現在を築いた地場産業ですが、食生活や生活習慣の変化により、経営環境の変化に直面しています。
- ・漬物は、健康志向などにより消費が減退していますが、「発酵」の持つ健康パワーが

見直されています。このような新しいテーマに業界団体とともに取り組み、新たな需要を生む商品開発の契機となるよう支援していきます。

- ・水引についても、結納の習慣が廃れるなどの環境変化がありますが、新製品・新機能の開発などのマーケティングが試みられています。これらについて業界団体とともに取り組んでいきます。

地域金融機関として、業界団体や行政機関と連携してこれらに取り組んでいきます。

### ③資金調達や情報発信に有効な手法である「クラウドファンディング」導入の準備を開始します

地域資源の活用やブランド化、地域活性化に資する諸活動の支援および創業時ならびに事業展開時等の資金提供手段の多様化を図るために、「購入型クラウドファンディング」を導入します。事業者にとって資金調達のみならず、全国への情報発信、販路拡大、新商品・サービス等のテストマーケティングとしての機能を地域のお客さまに提供し、リニア時代に向けて当地域の魅力発信を強化します。

クラウドファンディング仲介事業者と地域のお客さまを繋ぐ橋渡し役となり、事業者の皆様が考えるプロジェクト実現のために仲介事業者と連携し積極的な役割を果たします。

- ・クラウドファンディングを利用した事業（プロジェクト）実施の相談窓口を開設します。
- ・事業に対してアドバイスを行い、事業計画等の作成を支援します。
- ・事業を育てるという視点で、地域金融機関のノウハウを活かした事業に対する助言をいたします。
- ・クラウドファンディングを活用した地域内の魅力的な事業を更に強く外部へ発信するため、クラウドファンディング案件を紹介する専用ページを当金庫ホームページ（HP）に設けるとともに、外部機関とも連携して拡散力を強化する取り組みを行います。

### ④信金中央金庫・全国信用金庫のネットワークを通じた企業、研究施設誘致への積極的関与を図ります

リニアを見据え、移動時間の短さや、自然災害が少ないこと、田舎で暮らしながらの勤務などQOL（クオリティ・オブ・ライフ）の訴求などにより、当地域への企業・研究所の誘致を、信金中央金庫との情報交換などにより、都市圏企業等へ働きかけます。

### ⑤当金庫の採用方法の検討・導入に向けた研究を行います

若い人が都会から帰ってこない、という声が聞かれます。ある年齢になって地元へ帰りたいたいというUターン希望者に対し就業機会を提供できるよう、当金庫の職員採用について、中途採用による柔軟な対応ができるよう検討します。

## (4)暮らし、子育て、地域資源の活用

### ①青少年健全育成、自然保護、伝統芸能保存等に取り組む個人・団体に対する助成制度の創設を検討します

地域の青少年健全育成（スポーツ少年団など）、自然保護、伝統芸能保存に取り組んでいる個人・団体が数多くあります。これらはボランティアもしくは財務的に厳しい団体により取り組まれています。

これらの個人・団体に対し、助成する制度の創設を目指します。

## ②太陽光、小水力、バイオマスなど自然エネルギーの推進に取り組みます

太陽光に加え、小水力・バイオマスによる発電がこの地域内で取り組まれています。これらを増やし太陽光発電と組み合わせることで自然エネルギーの有効的な利用が可能と考えられます。当金庫は、太陽光発電への融資実績を踏まえ、他の発電についても資金的な援助に取り組んでいきます。

## ③信州大学と飯田市において取り組まれている航空機システム共同研究講座設置に対する支援

当金庫は信州大学が2017年の開設を目指す「航空機システム共同研究講座」を運営するコンソーシアム立ち上げに関して参加しています。設立準備会が開催され、支援の輪を広げているところであり、今後準備期間に入っていきます。所要経費の調達などが具体的課題として上がってくるところですが、当金庫としても当地域製造業の大きな発展の可能性があると考え、適切な支援が出来るよう検討して参ります。

## ④地方公共団体および信金中央金庫と連携し、企業・行政機関の自然災害等に対応するバックアップ施設の当地域誘致への働きかけを行います

大都市圏との距離があり、リニアによりアクセス時間が短くなるという当地域はまた、自然災害が比較的少ないという特徴があります。

大都市圏の企業や行政のバックアップ拠点を当地域に誘致することは有望と思われまます。地方公共団体および信金中央金庫を通じこのような働きかけを進めることとします。

## ⑤可処分時間が豊かなことを都市圏へ発信

「可処分時間」は牧野光朗飯田市長が提唱されていますが、地方に住む上での考え方を示唆されているものです。この「可処分時間が豊か」な暮らしの実現の上で、リニア中央新幹線は、移動の所要時間短縮という面でこれを後押しすることになるものです。ただ、それを実現するところがなぜ飯伊なのかを明確にしなければならないと考えられます。仕事以外の時間を費やすのにこの地がふさわしいことをこの地域として訴求していく必要があります。

アンケート調査では、当地域の魅力として様々なものが挙げられました。これらを更にブラッシュアップして他地域、特に大都市圏に住んでいる人に対し伝えていくことが重要であると考えます。

当金庫は当地域の魅力をこれまでも情報誌などで地域外に対し発信してきました。本年度は当金庫HPをリニューアルして地域情報を充実させています。今後もHPの充実の他、外部へ当地域の魅力発信を更に強化していきます。

## (5) リニア開通に向けた街づくり

### ①リニア駅周辺整備地域への支店出店を前提として街づくりへ支援・参画していきます

リニア長野県駅の周辺整備が順次進められていますが、本調査アンケートでもリニア駅周辺については様々な意見があります。今後は、行政の取り組みに加え、地元地域の住民の皆様を中心に、民間の関与も重要です。

当金庫としても駅周辺整備区域への支店出店を視野に入れ、地域の皆様とリニアの街づくりについて一緒になって取り組んで行きたいと考えています。

②「大型複合スポーツ施設」設置に向け関係諸機関と研究を開始します

アンケート調査により「リニアの通る街に必要な施設」、「駅周辺にあるとよい施設」について様々な意見・要望をいただきました。当金庫としては、リニアの通る街に必要な施設として、要望の中から「大型複合スポーツ施設」の実現を取り上げ地域への提言とします。

当地域には、大規模な室内スポーツを行える施設がなく、若い人がこの地域に住むには、働く場所に加え、地域に「わくわく感」も必要と考えます。これを一つの例とし、今後皆様と一緒に実現に向けて考えて行くことにします。